



当院の敷地内であるが  
もが卵からかえり、巣  
立っていきました。



ここでかるがもが産卵



タマゴです

親ガモが温めています

お腹の下に子ガモが寄り添っています。

職員駐車場を横断中

用水路に行きつきましたが...

泳いでいるようで流されています。



救出!

近くの田んぼに放しました。元気だね~



## 目次

・診療科紹介	
眼科・血液内科 .....	2・3
・特定看護師紹介 .....	2・3
・平成25年4月からスタート	
緩和ケア病棟 .....	4
不妊カウンセリング外来 .....	4
・部門紹介	
産科病棟 .....	5
・「食品まつり」を終えて .....	6
・施設紹介	
9階レストラン「プラタナス」 .....	7
・赤十字講習会のご案内 .....	8
・いきいき介護リハビリ教室のご案内 .....	8
・演奏会のお知らせ .....	8

## 基本理念

### マイタウン・マイホスピタル

～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

## 基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さまの立場を尊重し、患者さまに信頼される病院をつくります。
3. 日々の研鑽を惜みず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

# 診療科

## 目の定期検査をしていますか？



眼科部長 齋藤 実

最近少し、ぼやける？手元が見えにくい？現代社会では20歳代から眼の老化現象は始まっています。

緑内障は、2003年に報告されたものでは、40歳以上で17人に1人、緑内障と診断されています。

また白内障のほとんどは加齢とともに起こる病気で老化現象の1つです。白内障の発症頻度としては、早い人では40歳代から進行する場合もあり、50歳代では40～50%、60歳代では70～80%、70歳代では80～90%、80歳以上になるとほとんどの人が白内障になると言われています。

白内障は目の中のレンズが濁ることで視力が徐々に低下していく病気で、様々な症状がみられます。この病気の自覚症状としては、かすんで見える、ぼやける、外などの明るいところでは光がまぶしくて見えない、夜間の車のヘッドライトがまぶしい、暗くなると見えにくくなる、メガネなどの矯正をしても文字などが読みにくい、などといった症状が見られる病気です。

白内障によって眼の中のレンズが1度混濁してしまうと、薬により再び透明にすることはできません。そのため、以前の視力を取り戻すためには、手術によって濁ったレンズを取り除き、眼内レンズという人工のレンズを入れ替える手段以外に治す方法は現在のところありません。しかし、白内障手術はこの10～20年の間に画期的な進歩を遂げました。麻酔法が改善さ

れたこと、超音波による水晶体摘出法が確立し眼の負担が少なくなったこと、眼内レンズの品質が向上し、安全に挿入できるようになったことなどがあります。まず何よりも患者様にとってありがたいことは、手術時間が10～20分程度、入院期間が以前より少なくなったことではないかと思います。そして翌日眼帯をはずすと、世間はこんなにも明るかったのかと感じ、生活が楽しく変わっていく傾向があります。

昨年度までの那須赤十字病院眼科は、非常勤医師による外来のみの診療でしたが、平成25年4月より常勤医師の着任により、月曜日から金曜日、第1・第3土曜日の外来を行い、以前はしていなかった手術を準備ができ次第、水曜日・木曜日で白内障を中心とした手術を実施していく予定です。片眼は2泊3日、両眼は3泊4日を予定しております。なお、日帰り手術は、大変申し訳ありませんが、現在のところまだ予定はしておりません。今後検討していく予定です。

当科外来では常勤医1名・非常勤医師2名の専門医とともに、常時2名の看護師・2名の視能訓練士が検査・治療に携わっておりますので、お気軽にご相談ください。最新の検査機器・手術機器を揃え、正確な診断と十分な説明でそれぞれの患者様に最善の治療を心がけています。スタッフ一同、御来院お待ちしております。

## 看護の「こころ」と医師の「思考」を持った特定看護師

特定看護師 島田 知子

現在、医療の高度化が進み専門性の幅広い医療行為の全てを医師だけでカバーすることは難しい時代になり、その一方で、人口の高齢化は急速に進み、医療の地域格差が生じており、医療を必要とする人々が公平に医療にアクセスする体制の整備が問題となっており、地域のすべての人々に安全で安心かつ公平で効果的な医療をタイミング良く提供できる体制整備の一環として、特定看護師の養成が始まっています。

特定看護師とは、原則医師にしか認められていない医療行為の一部を担う看護師のことです。このような看護師はアメリカ・イギリス・フランス・オーストラリアなど多くの医療の先進国ではすでに導入されており、海外においてはナースプラクティショナーと呼ば

れています。

私は2012年3月に日本で初めてのクリティカル領域（急性期）における特定看護師として、厚生労働省が認可した「特定看護師養成調査試行事業実施過程（修士）」を修了し、日本NP協議会が実施する「NP資格認定試験」に合格し、特定看護師の認定を受けました。日本においては看護師の医療行為は法律上認められていないため、当院は2012年9月に厚生労働省「看護師特定行為・業務試行事業申請」の認定を受け、特定看護師が一部の医療行為を当院において実施することが認められました。

現在、医師の直接的・包括的指示のもと、診察・検査・画像評価・処置・創傷管理・手術介助等の臨床研修を

# 紹介



当院の血液内科では、最新の標準治療を基盤とし、患者さま一人ひとりに合わせた最適な治療をご提供いたします



血液内科部長 小林 洋行

血液は、白血球・赤血球・血小板の血球成分と、水・電解質・たんぱく質などの血漿成分からなる液体の臓器です。成人の血液は4L～5Lあり、人間の最大の臓器でもあります。

体の隅々まで行き渡っているため、血液の異常は全身の症状として現れることが多いです。からだのだるさや、息切れ、長く続く発熱や、リンパ節の腫れなど、様々な症状が血液疾患により現れることがあります。

血液内科では主に、白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などに代表される腫瘍性疾患と、再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病・血友病などの非腫瘍性疾患の診療を幅広く行っています。血液腫瘍はいずれも高齢者の罹患率が高く、当科は県北エリアにおける重要な拠点となっています。常勤医師による入院・外来診療と、非常勤医師による外来診療を行っています。血液疾患は急速に病状が変化することも珍しくないため、血算異常・リンパ節腫大・不明熱に対する迅速な診断を行い、適切な治療開始のタイミングを逃さないように心がけています。また、特に腫瘍性疾患においては、化学療法（抗がん剤治療）における副作用が最小限で抑えられるように適切な補助療法を心がけています。また、クリーン・ルーム（NASA規格クラス10000）を2床有し、高度の骨髄抑制にも対応可能な体制をとっています。さらに造血幹細胞移植が必

要な場合は、大学病院と密な連携をとり、適切なタイミングで紹介できるようにしています。

当科では最新のエビデンス（科学的根拠）に基づいた医療を提供可能な体制が整っておりますが、高齢の患者さまも多い地域であるため、患者様ひとりひとりの病状や希望、社会背景なども考慮し、最適な治療を提供いたします。また、血液疾患は一般的に社会的認知度が低いことが多いため、病気や治療法について、解り易い言葉で説明し、できるだけ不安を取り除けるように心がけています。



クリーンルーム前室

行っており、医師の臨床推論能力や治療選択等に対する考えやカンファレンス（話し合い）は、今までの自分にはない知識や技術を与えてくださり、自分の考えに問いを持ち、能力を養うのにとっても良い場となっています。

特定看護師が介入することにより、医師は医師にしかできない専門性の高い業務に専念していただき、看護師へは患者満足の高い看護ケアが提供できるよう支援し、検査・治療・リハビリテーションがスムーズに進むよう多職種との調整役となり、よりチーム医療が推進され、安全で安心な医療をタイミング良く患者さんに受けていただけるような信頼される特定看護師を目指し、努力を惜しまず頑張っ

て進んで行こうと思



現在、脳神経外科で奮闘中！（筆者前列中央）

## 平成25年4月からスタート

### こんにちは 緩和ケア病棟です

緩和ケア病棟 渡邊 信代

平成25年4月より、8階西病棟が県北初の緩和ケア病棟として、全個室20床で開設しました。8階の各病室からの見える田園風景と、遠くに見える山々はとてもすばらしい眺めです。また、全室個室となっていますので、ご家族様とより多くの時間を共に過ごすことができるような環境を整えています。

さて、「緩和ケア」と耳にすることはあっても具体的にはどんな病棟なの？とお思いになる方もいらっしゃると思います。現在の日本において、がんを患う方は大勢いらっしゃると思います。医療技術の進歩により、がんの治療も年々進歩しておりますが、まだまだ、完治することは難しい病気であるのが現状です。がんによっておこり得る様々な症状、たとえば痛み、吐き気、苦しいなどの身体的な症状と、不安、抑うつなど精神的な症状を抱えながら生活を送っていくことはとても辛いことです。

緩和ケア病棟は、治療が困難とされた、がんの患者様が対象となり、苦痛を和らげることを目的に入院する病棟ですので、病気そのものと闘うための治療はしません。それでは、緩和ケア病棟では何も治療はしないの？という誤解を持たれてしまうかもしれませんが、そうではなく、がんの患者様が持つ痛み、吐き気、呼吸困難、不安、抑うつなどの苦痛を取り除くために、医師、看護師の他に薬剤師、栄養士、臨床心理士、リ

ハビリ担当者などの医療スタッフがチーム一丸となって治療に取り組みます。そして患者様とご家族様が前向きに時間を過ごすことができるよう、支援する体制を整えています。また、苦痛が緩和されましたら、患者様にとってより良い環境下で療養ができるようご自宅などへの退院支援を行ないます。

緩和ケア病棟では、各季節に合わせた催しを開催し、癒しの時間を多く持てるように配慮をしています。そして、患者様とご家族様が見せてくれる笑顔が私たち看護師の支えとなり、力となっております。



全室個室



ダイコーナ 緑が一望できます 季節の飾り (3月おひな祭)



## 不妊カウンセリング外来が始まりました。

不妊カウンセラー 矢口 美幸 相馬みどり

最近、テレビなどで不妊症の話題が多く取り上げられています。その背景には、女性の社会進出が著しくなり、その社会の変化に伴って、晩婚化・晩産化傾向による高齢者不妊が増加していると考えられます。

そんな時、素敵な出会いがあって、「結婚してパパ・ママになる」と考えるなか、妊娠しない期間が長くなり、「どうして妊娠しないのだろう」と疑問を抱き、不安が積み重なってしまいます。「病院へ行ったほうがいいかな」と思っても、婦人科には受診しづらい雰囲気があるかもしれません。勇気を出して受診して不妊治療を始めたものの、なかなか望み通りの結果が出ずに期待と落胆を繰り返してしまうかもしれません。それだけでなく、家族からのプレッシャーや職場への気遣いや経済的負担など、カップルが感じる問題は多いと思います。一人で悩んでしまい、我慢してしまう

ことがあったら、まずパートナーと話し合ってみましょう。不妊はカップルの問題です。お互いに支え合って治療に望んでほしいと考えています。

当院では、不妊カウンセラーによる相談外来を4月から予約制で実施しております。個別に説明室でお話を伺い、治療に関して必要な情報をできる限りわかりやすく説明させていただきます。また、医師や胚培養士と連携をとりながら対応させていただいています。不妊治療は、デリケートな領域が多いため、一人であるいはカップルで不安や悩みを抱え込んでしまうことも少なくありません。不妊カウンセラーとして、カップルそれぞれが少しでも前進できるようお手伝いをさせていただきたいと思っています。些細なことでも結構ですので、ぜひ足を運んでみてください。

## 部 門 紹 介

### 産科病棟「さくら病棟」

師長 相馬 幸子

産科病棟は、NICU（新生児集中治療室）に隣接した周産期センターとして機能しています。周産期とは、妊娠 22 週から生後 7 日までを言いますが、周産期センターは産科と新生児科の両方が組み合わされた施設で、リスクのある妊婦さんにも対応します。その中で産科病棟は、産科病床 24 床と院内助産としての『パースセンター』5 床の入院設備があり、毎月 50 ～ 60 人の赤ちゃんが生まれています。

分娩室は NICU と直結し、新生児の安全を確保しています。陣痛が始まったときから分娩後 2 時間まで同じ部屋で過ごしていただいています。ご希望があればご主人やご両親の入室や立ち会いができます。

また、パースセンターは、妊娠出産のリスクの少ない方が、自然分娩を助産師が主導して産婦とご家族と一緒に出産する場所です。パースセンターでの出産をご希望された場合には、医師の診断で妊娠経過に異常が無いことが確認されると、パースセンターでのコースをお選びいただけます。その後は助産師の診察が中心となります。医師の立ち会いのない出産ですが、ひ



マタニティクラス



分娩室



パースセンター



沐浴指導

とたび異常があれば産科医師との連携を迅速にとることができます。【自分らしい出産】を、産婦さんとご家族と助産師が一緒になって過ごしていく場所です。パースセンターでの出産は、ご主人の立ち会いはもちろん、お子様の立ち会いもできます。ご家族みんなが新しい命を迎えることができます。パースプランに沿った分娩ケアをできる限り提供させていただきます。

その他に、助産師外来、母乳外来、分娩準備のマタニティクラスを 3 回、産後には赤ちゃんクラスを開催しています。自分らしい出産を迎えるために、ご家族も一緒に参加していただけます。

妊娠・出産・分娩は、ご家族にとってとても大きな出来事で、満足が得られた出産であることは、特に女性にとって人生にとってとても大きな影響を及ぼすものだと思います。

安全で安心、心地良い満足のいく出産ができるように、分娩ケアをさせていただきます。

## 第16回生活習慣病予防「食品まつり」を終えて

栄養課 松田 千鶴

今年3月16日(土)に3.11東日本大震災後2年ぶりに、那須赤十字病院に新築移転後としては初めて、第16回目となる「食品まつり」を開催いたしました。

那須赤十字病院への移転等で十分な準備がとれず、且つ大きな部屋(マイタウンホール)を会場としたため、配置設定に悩み本当に各スタッフには心配をかけてしまいました。それでも当日は素敵な飾りつけもでき、北島院長からの挨拶から始まり、無事開催の運びとなりました。

今年度も生活習慣病予防のための食の知識と、食への取組みについて様々な情報の中から正しい選択ができるように、医師をはじめ病院のあらゆる職域からスタッフが参加してくれました。糖尿病、メタボリック、骨粗鬆症、特定健診、新たに小児肥満予防コーナーも設けました。SMBG(自己血糖測定)や体脂肪測定、骨密度の測定は例年通り盛況でした。骨密度測定後に結果を表作成し可視化するなどして、評価が可能とな



骨密度測定



糖尿病予防コーナー



ゲームコーナー



展示

りました。糖分入りの飲料水と同等の糖水の試飲や脂肪の塊3kgを実際に抱えるなど、体験型参加も取り入れました。また、小児肥満予防コーナーではDVD放映を行ない、小児科医師の講話も放映しました。今年もゲームコーナーや喫茶コーナーを設け、来場者にほっと一息ついてもらいました。会場設定や受付業務に携わってくれた方々の努力に感謝しています。回を重ねる毎にスタッフのアイデアも多くなり、毎年食品まつりはバージョンアップしています。何百人もの来場者と関わり、食品まつりに参加したスタッフ自身のためにも必ず得る物があると感じております。他職種協働で行なうチーム医療の一環であり、全く顔も分からなかったスタッフが、共通体験により食品まつりチームとして活動できました。患者様、その家族、一般住民、職員にとっても健康活動の一端となり、ささやかでも健康生活に貢献できたと信じます。

## 施設紹介

今回は当院の9階にございますレストランについてご紹介致します。名前は当広報誌と同じ「プラタナス」。患者さんでない方でもお食事できます。是非ご利用下さい!!

### ◆◆ レストランの方にインタビューをしてみました ◆◆

#### Q, レストランの雰囲気は？

那須連山や八溝の山々をバックに大田原の街並を見下ろす事ができるとても展望のよい静かなレストランです。



#### Q, 工夫やこだわりは？

季節メニューをはじめ、シダックス人気のオリジナルメニューも、多数そろえております。セットメニューでお召し上がり頂くとよりお得です。



#### Q, おすすめメニューは？

とろっと卵のオムライス  
**¥500**  
(セット ¥750)



ハンバーグデミソースセット **¥750**



ラーメンセット **¥750**

#### Q, 今後の展望や目標は？

季節ごとに工夫を凝らしたメニュー作りをこころがけております。地域の皆様に繰り返し来て頂けるような明るくて清潔なお店作りを目指して参ります。

#### Q, お客様へ一言

スタッフ一同心より皆様のご来店をお待ちしております。なお、ピーク時は多少お待たせしてしまう場合がございますがどうぞご了承下さい。

シダックス9階レストラン 『プラタナス』

店長 五月女

## 赤十字講習会のご案内 「救急法」

**基礎講習** 受講資格: 満15歳以上の方

**費用** 教材費等: 1,500円  
**日時** 8月3日(土)13:00~17:00  
**会場** 那須赤十字病院

傷病者への接し方、心肺蘇生とAEDの使い方など

**申し込み先** 日本赤十字社栃木県支部

**救急員養成講習** 受講資格: 救急員養成講習を受講する時に「赤十字救急法基礎講習修了者認定証」の資格有効期限が有効な方

**費用** 教材費等: 1,500円  
**日時** 8月10日(土)、11日(日)9:00~17:00  
10月26日(土)、27日(日)9:00~17:00  
**会場** 那須赤十字病院

急病時の対応、けがきずの手当、傷病者の搬送の仕方など



**申し込み先** 日本赤十字社栃木県支部

## 赤十字講習会のご案内 「幼児安全法」

**支援員養成講習** 受講資格: 満15歳以上の方

**費用** 教材費: 1,500円  
**日時** 11月23日(土)、24日(日)9:00~17:00  
**会場** 那須赤十字病院

こどもの成長と発達、こどもの起こりやすい事故の予防と手当、乳幼児の心肺蘇生とAEDの使い方など

**申し込み先** 日本赤十字社栃木県支部

**育児のワンポイント講習** 受講資格: なし

**費用** 保険料: 100円 任意  
**日時** 7月27日(土)10:00~12:00  
**会場** 那須赤十字病院

気道異物による窒息の手当、病気の時の看病の仕方などを学びます。

**申し込み先** 那須赤十字病院社会課

申し込み先が日本赤十字社栃木県支部となっている講習についての詳細はホームページ <http://www.jrc-tochigi.org> をご覧下さい。

## 第16回いきいき介護リハビリ教室 テーマ:「転倒予防」

講演1 お家を整えよう 講演2 体を整えよう  
楽しく学んで転倒無し

**日時** 7月6日(土)10:00~11:00  
**会場** 那須赤十字病院 リハビリテーション室  
**対象** 体力が落ちてきたと感じる方…  
お家の環境に不安がある方…などなど  
参加無料です!お気軽にどうぞ☆

**問い合わせ**  
那須赤十字病院 リハビリテーション科

**平成25年度スケジュール**  
平成25年 7月 6日 「転倒予防、リハビリ体操」  
平成25年 9月 7日 「介護実技」  
平成25年 11月 2日 「認知症、リハビリ体操」  
平成26年 1月 18日 「転倒予防、リハビリ体操」  
平成26年 3月 1日 「介護実技」

## 演奏会のお知らせ~琴のしらべ~

**日時** 7月20日(土)13:00~  
**会場** マイタウンホール  
**演奏** 宇都宮海星女子学院 箏曲部  
素敵な音楽に癒されてみませんか?  
皆さまのお越しをお待ちしております。



**編集後記**  
当広報誌をお読み頂きありがとうございます。  
この号より広報誌編集会議を行うようになり、内容を充実させることができました。  
患者さんや地域の皆さまに有用な情報を発信していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。  
総務課 長山

## 那須赤十字病院広報誌プラタナス NO.2

**発行日** 2013年7月  
**発行者** 那須赤十字病院  
〒324-8686 大田原市中田原1081番地4  
<http://www.nasu.jrc.or.jp>  
**TEL** 0287-23-1122 **FAX** 0287-23-3004  
**印刷** 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷